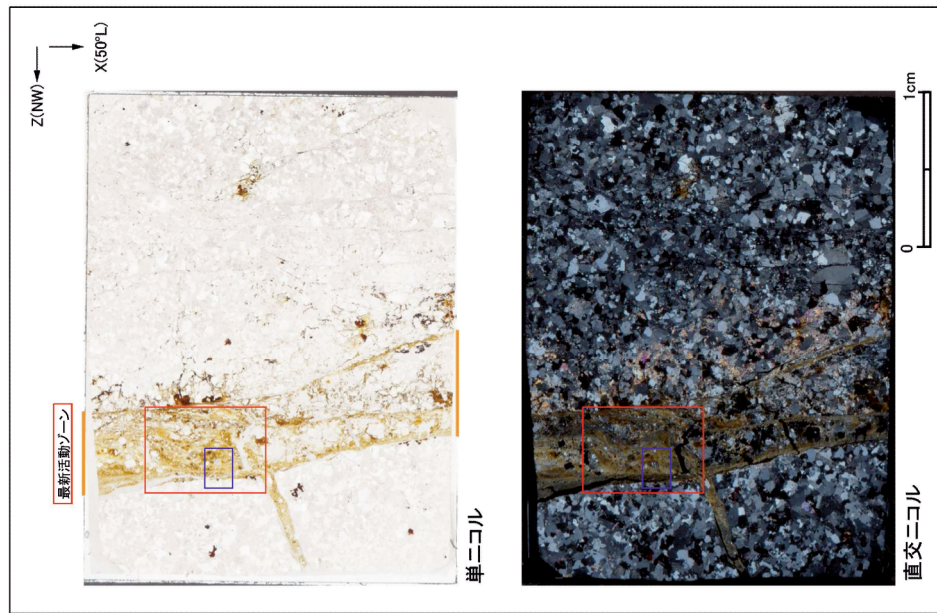
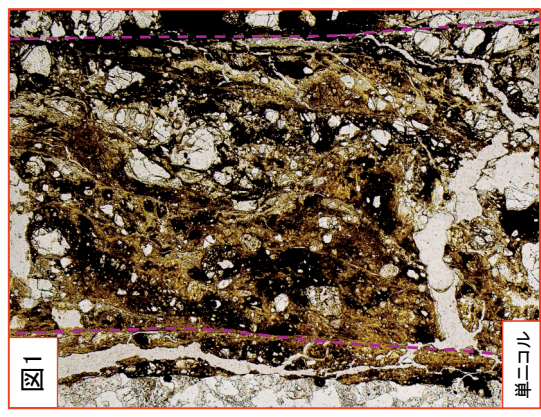


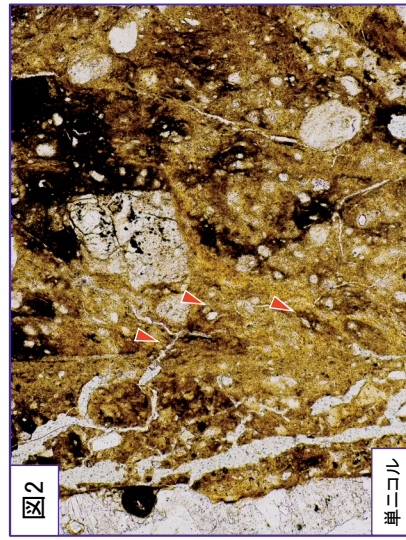
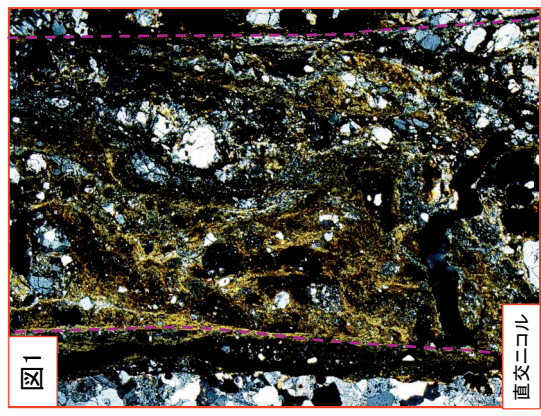
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



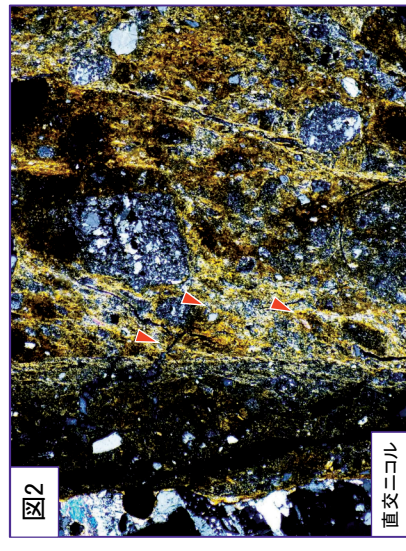
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



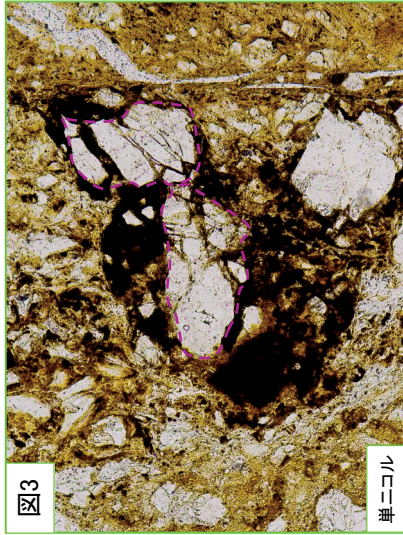
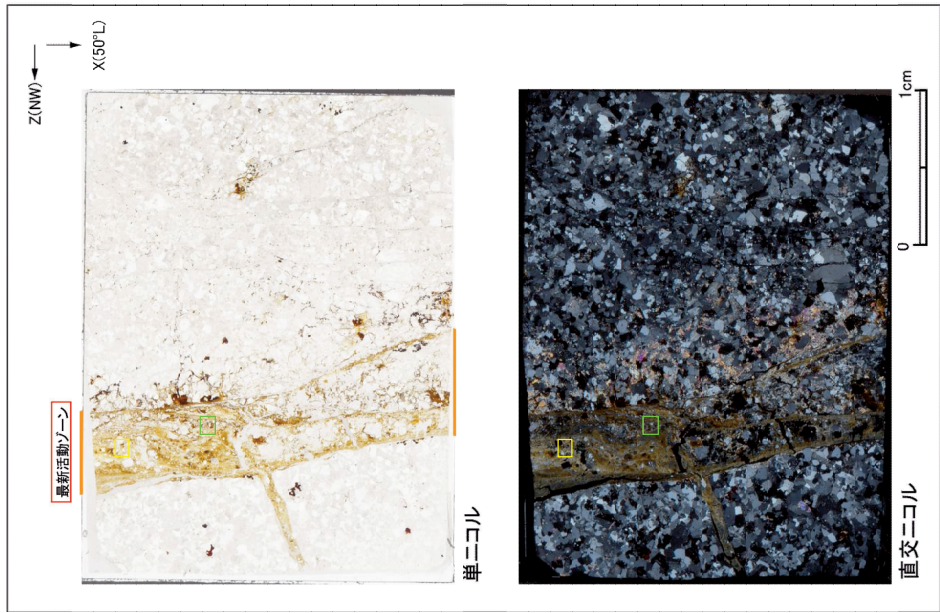
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



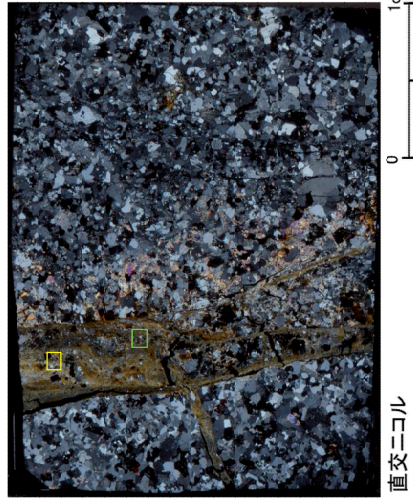
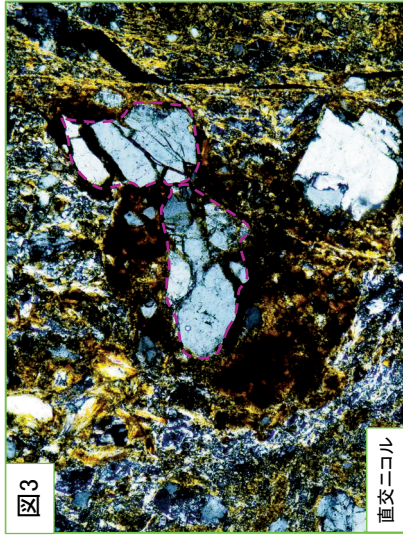
赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



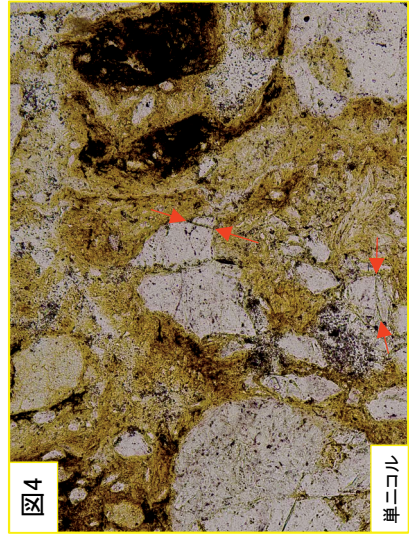
・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 ➢ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図4)
 ➢ ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



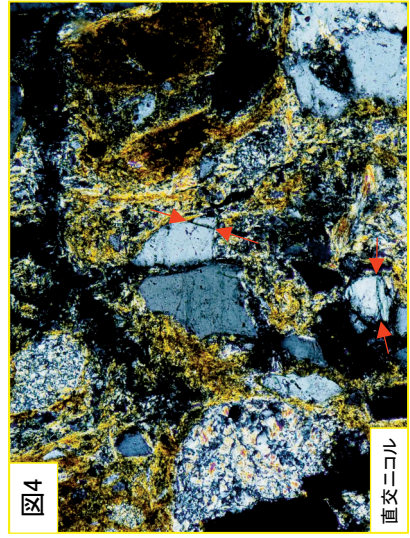
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度59.69m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。
以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.1	無

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度76.59mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度76.59～76.65mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度76.65～76.89mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

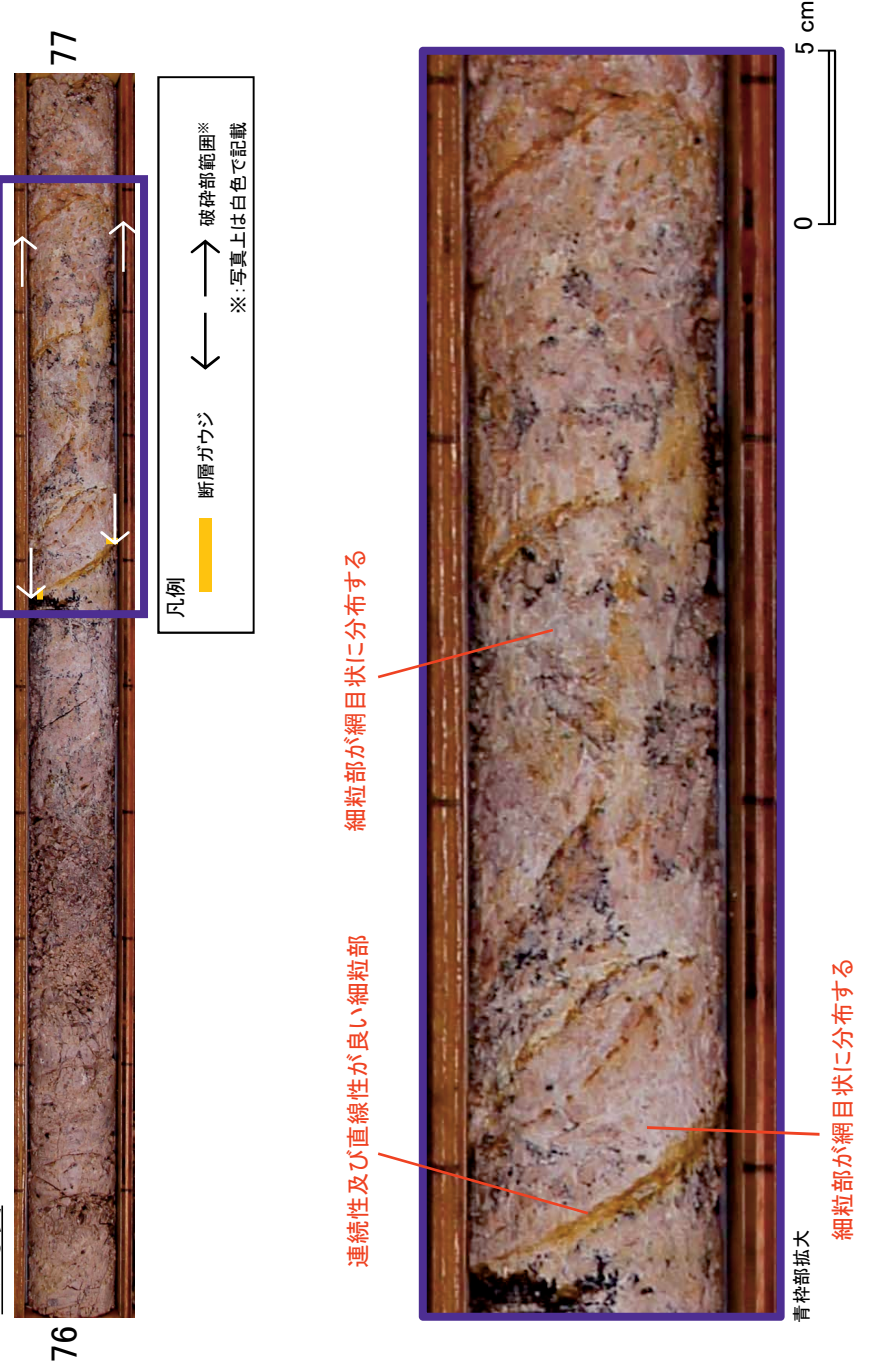
ボーリング柱状図

●76.59～76.89m：破碎部
 76.59m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。

76.59～76.65m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端47°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1～2mmの石英粒、径3～10mmの粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白～にぶい橙色を呈する。幅40～50mm。

76.65～76.89m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。径3～10mmの硬さ「D」～粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破碎部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33°のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙～灰白色を呈する。

コア写真



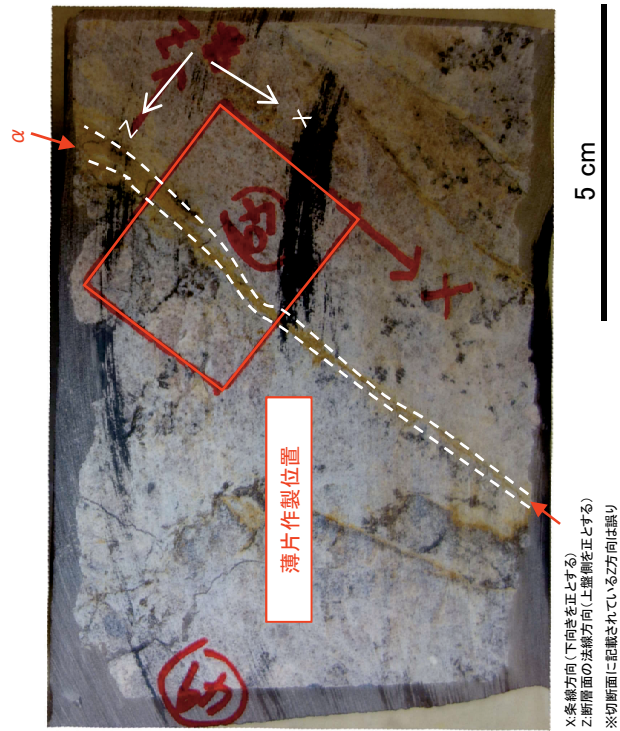
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

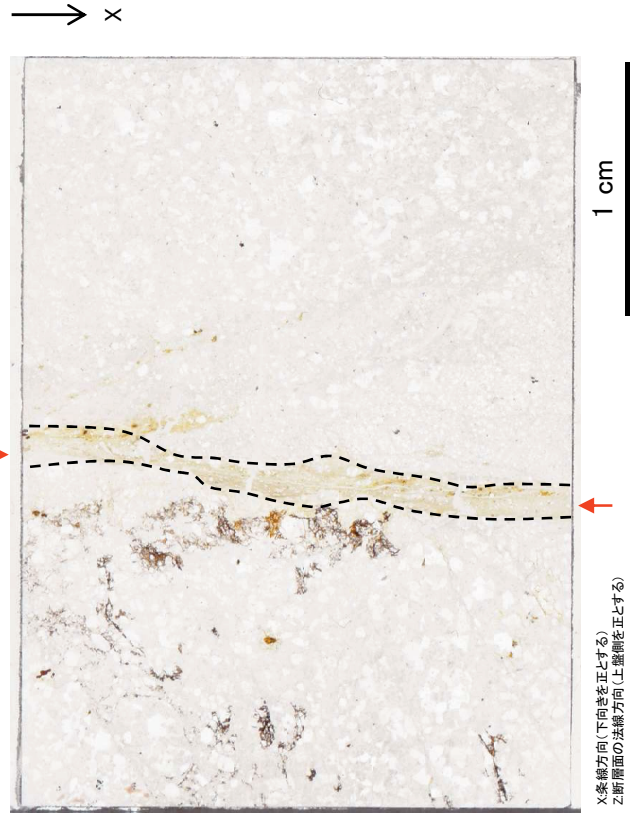
※断層面 α は最新活動面



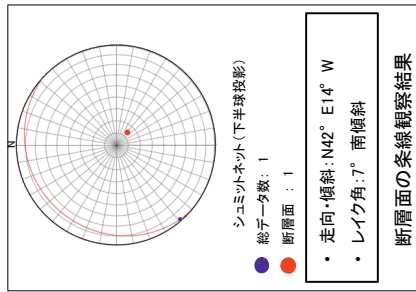
薄片作製位置写真



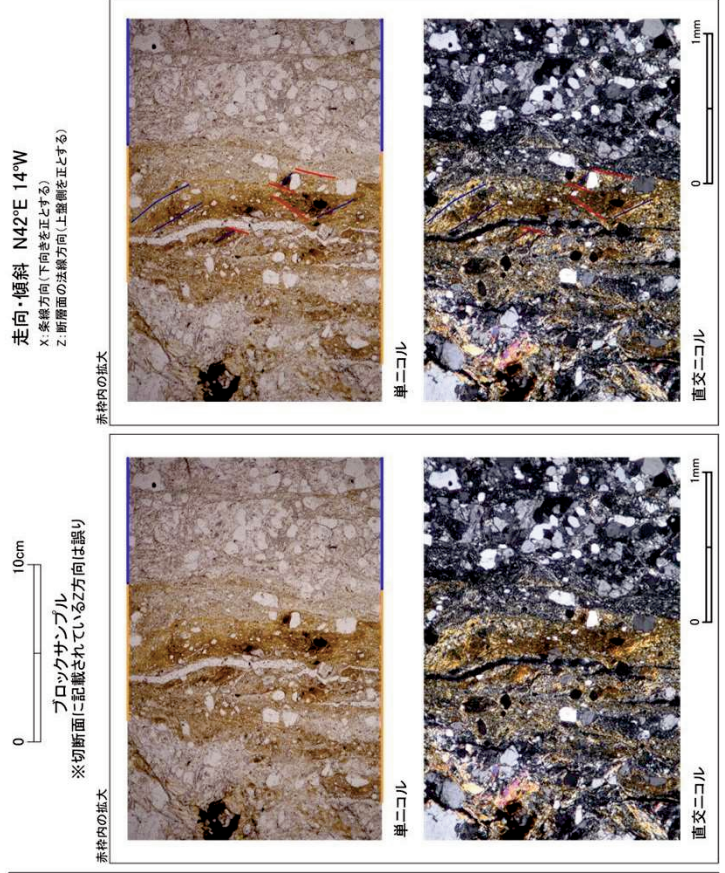
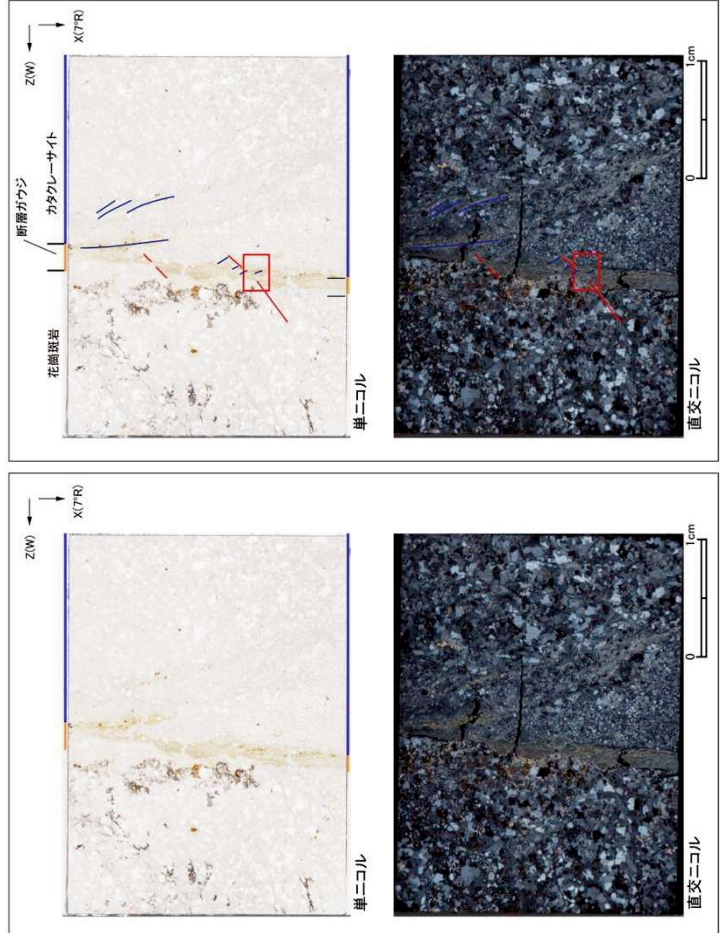
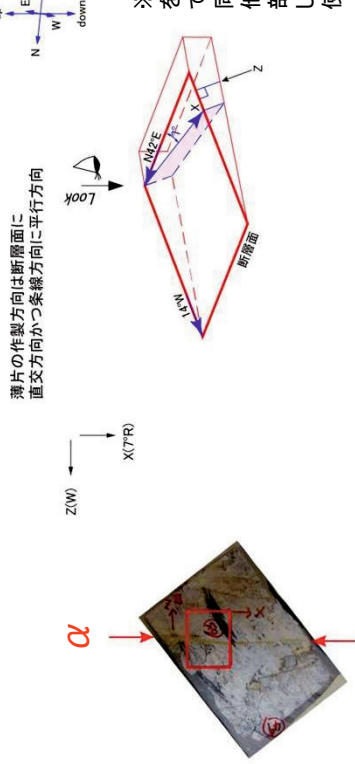
薄片全景写真(単ニコル)



- ・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



※断層面 α は最新活動面



走向・傾斜 N42°E 14°W

X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上置側を正とする)

凡例	
	断層ガウジ
	カタクレーサイト
	R1面
	P面